

# 大鳳凰図 転生物語

小布施とHOKUSAI 神妙に達していた絵師

鑑賞ガイド

会期——2022年6月2日(木)～7月3日(日) 木曜日～日曜日開催  
 会場——NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] ギャラリーA  
 主催——東日本電信電話株式会社  
 企画・運営——株式会社NTT ArtTechnology  
 監修——久保田巖(株式会社アルステクネ 代表取締役社長)  
 企画協力——市村次夫(北斎館 理事長)  
 協力——株式会社アルステクネ、岩松院、北斎館、  
 高井鴻山記念館、似鳥美術館、ローランド ディー・ジー株式会社  
 サイト——<https://www.ntt-east.co.jp/art/hokusai-special/>



作品リスト

- ①「詠歌美人図」(似鳥美術館所蔵)
- ②「雲龍図」(似鳥美術館所蔵)
- ③岩松院天井絵原図「鳳凰図」(岩松院所蔵)
- ④岩松院天井絵線描下絵「鳳凰図」(個人蔵)

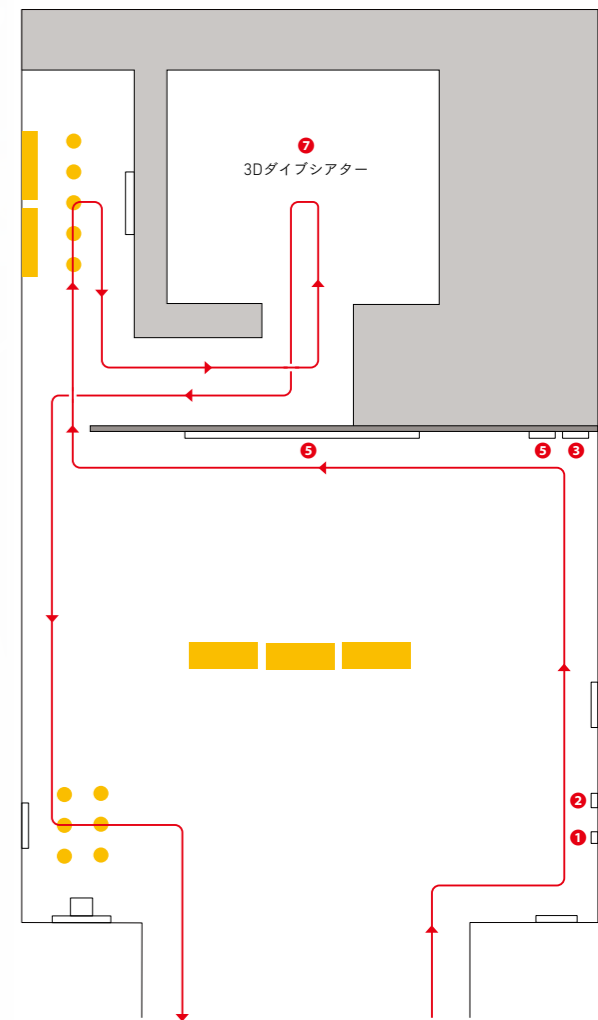
- ⑤岩松院本堂天井絵「鳳凰図」(岩松院所蔵)
  - ⑥東町祭屋台天井絵「鳳凰」(北斎館所蔵)
  - ⑦岩松院本堂天井絵「鳳凰図」推定完成復原図
  - ⑧「鳳凰図屏風」(ボストン美術館所蔵)
- ※⑤、⑥、⑦はパネル展示のみになります。



Photograph©2022 Museum of Fine Arts, Boston



会場順路



## イントロダクション

「Digital×北斎【破章】北斎vs廣重」展でとりあげた「富嶽三十六景」、そして歌川廣重の「東海道五拾三次」以降の葛飾北斎、本展覧会で重要な役割を果たす高井鴻山、舞台となる小布施、そして岩松院についてご紹介します。

・動画「オープニング」

## 第1章 北斎 新たな旅

天保5年（1834年）、75歳を迎えた北斎は、「富嶽百景」の発行において、最後の画号となる「画狂老人卅」を名乗ります。浮世絵版画を離れ、自然、故事、宗教といった普遍的なものを題材とする肉筆画を中心に描くようになります。

### コーナー1 北斎と肉筆画

浮世絵師として名高い北斎の作品は、画風はもとよりその表現手段も浮世絵版画、挿絵、絵本、俳諧、摺物、絵手本、肉筆画等多岐にわたりますが、その集大成としたのは肉筆画でした。このコーナーでは北斎の肉筆画2作品のマスターレプリカをご鑑賞ください。

・マスターレプリカ「詠歌美人図」(原図：似鳥美術館所蔵)

・マスターレプリカ「雲龍図」(原図：似鳥美術館所蔵)

### コーナー2 北斎と鴻山

晩年北斎は、地元の名士で文化人の高井鴻山に招かれ小布施を訪れました。

天保2年（1831年）、鴻山は遊学先の京都から戻り、焼失していた岩松院本堂の再建にあたります。そして巨大天井絵の制作を北斎に依頼します。

動画や年表で北斎と鴻山の関係をご説明するとともに、現在に至る小布施と北斎の関わり、小布施にある2つの重要な文化施設「北斎館」「高井鴻山記念館」をご紹介します。

・動画「北斎と鴻山の出会い」

・パネル「高井鴻山と北斎 岩松院天井絵関連年表」「北斎の小布施来訪時期についての考察」「鳳凰、浄土思想と日想観」「小布施と北斎」

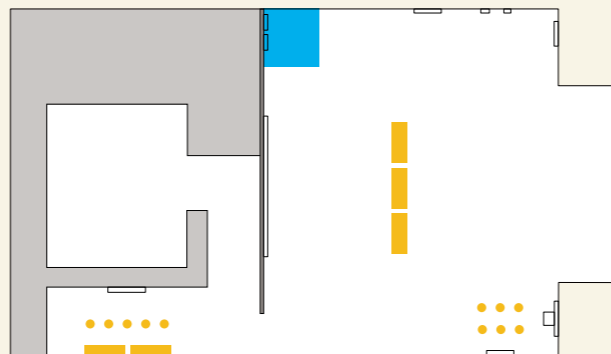
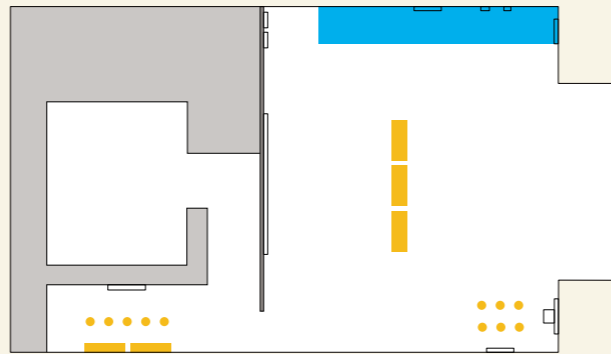
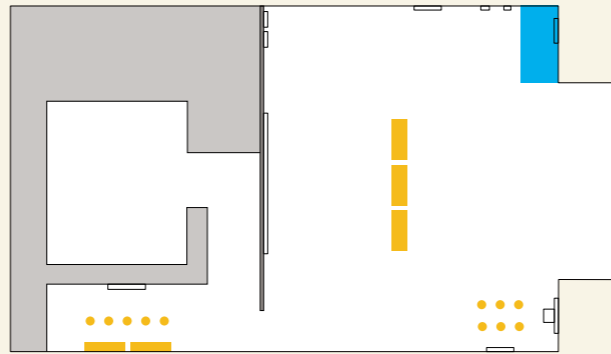
## 第2章 四つの鳳凰図の謎

北斎は鴻山の依頼に応え、いくつかの鳳凰図のデザインを描きます。その中から鴻山が選び彩色を依頼したのが、現存する岩松院天井絵原図「鳳凰図」です。北斎は生涯で4つの鳳凰図を描いていますが、そこにはある関係性がありました。4つの鳳凰図をご紹介しますとともに、パネルで関係性について具体的にご説明します。

・マスターレプリカ 岩松院天井絵原図「鳳凰図」

・マスターレプリカ 岩松院本堂天井絵「鳳凰図」(八方睨み鳳凰図) [原図と同寸の縮小版]

・パネル「曹洞宗 梅洞山 岩松院」「4つの鳳凰図の関係性」



## 第3章 巨大天井絵デジタル化プロジェクト

北斎没後170年にあたる令和元年（2019年）、謎が多い天井絵「鳳凰図」の超高精細デジタル化を行い、解析するプロジェクトがスタートしました。3年がかりのデジタル解析作業の結果、天井絵「鳳凰図」には驚くべき秘密が隠されていました。

実物大の天井絵「鳳凰図」(八方睨み鳳凰図)をご鑑賞いただいた後、本展覧会のクライマックスと言える第4章にお進みください。

その後、デジタル解析作業を通じてわかった事柄をパネルにて詳細にご説明します。

・マスターレプリカ 岩松院本堂天井絵「鳳凰図」(八方睨み鳳凰図) [実物大]

・パネル「天井絵のデジタル化」

・パネル「記録調査でわかったこと」「デジタル化でわかった新事実」

## 第4章 天井絵転生物語

北斎と鴻山が夢見たのは世界的にも例を見ない、壮大な仕掛けでした。しかし残念ながらその夢が完成することはありませんでした。現代の最先端技術により170年以上の時を経て完成した大鳳凰図の世界が転生します。

まず前室で天井絵「鳳凰図」の超高精細デジタル化のプロセス、デジタル解析作業を通じて得られた発見の概要についてご説明します。

その後、岩松院本堂を再現した3Dダイブシアターへお進みいただき、まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような空間で、北斎が目指したであろう推定完成復原版天井絵「鳳凰図」を体感いただけます。

・動画「巨大天井絵デジタル化」

・3Dダイブシアター「大鳳凰図転生物語」

## おわりに

最後に本プロジェクトのメイキングをご覧いただくとともに、フローティングギガビューワーで、「原図」「天井絵」「推定完成復原版天井絵」を細部に至るまでじっくりご鑑賞ください。

・動画「メイキング」「関係者インタビュー」(※)

・フローティングギガビューワー

北斎が描いていた理想の姿、そしてその想いとクリエイティビティを皆さまにお伝えしたいと願っております。

※オンラインでもご覧いただけます。



ダイジェスト(約4分)



オリジナル(約12分)

